

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2009

課題番号：19730322

研究課題名（和文） マルチステークホルダーによるガバナンスのための企業情報開示に関する研究

研究課題名（英文） A Study on Corporate Disclosure that Contributes to Corporate Governance by Multi-Stakeholders

研究代表者

記虎 優子（KITORA YUKO）

同志社女子大学・現代社会学部・准教授

研究者番号：50369675

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・会計学

キーワード：企業の社会的責任、CSR、テキストマイニング、企業ウェブサイト、情報開示、定性的情報、テキスト型データ、コーポレート・レピュテーション

## 1. 研究計画の概要

本研究では、コーポレート・ガバナンスを広義に捉えて、必ずしもエージェンシー理論に立脚することなく、多様なステークホルダーによるガバナンス・メカニズムに組み込まれたものとして企業の情報開示を捉えて、企業の情報開示のあり方を考察する。特に、こうしたガバナンス・メカニズムの一環としての企業の情報開示は、企業の戦略的動機に多分に影響を受けられると思われるので、本研究では、特に、企業戦略とのかかわりにおいて企業の情報開示に影響を与える要因とその効果を解明することを目的とする。

従来、会計学研究においては、投資家（株主）以外のステークホルダーに対してはあまり関心が向けられていない。これに対して、本研究では、投資家と同程度の重要度をもってその他のステークホルダーにも焦点を当ててコーポレート・ガバナンスを広義に捉えるとともに、コーポレート・ガバナンスとのかかわりにおいて企業の情報開示のあり方を考察する。また、本研究では、通常用いられる日本語で記述されている文章で構成されているテキスト型データに着目する。そして、この種のデータを定量的に分析するための新しい手法である、テキストマイニングを利用して、企業が情報開示に取り組む戦略的動機を解明する。

## 2. 研究の進捗状況

### (1) テキストマイニングによる企業の社会

### 的責任に対する基本方針の分析

企業の社会的責任（CSR）に対する基本方針についての各企業の比較的短い記述的回答のテキスト型データに対してテキストマイニングを行うことにより、CSRに対する各企業の捉え方や考え方を追究した。特に、本研究では、CSRの一環としての企業の情報開示志向やステークホルダー志向を追究した。その上で、CSRに対する基本方針に基づいて、企業をいくつかの企業群に類型化した。

### (2) CSRに対する基本方針と企業ウェブサイトにおける情報開示の関係についての分析

上述のCSRに対する基本方針に基づく企業の類型化の結果を踏まえて、企業ウェブサイトという特定の開示媒体に焦点を当てて、企業の情報開示の規定要因の1つに、CSRに対する捉え方や考え方といった定性的な企業特性があるのかどうかを解明した。その結果、CSRに対する各企業の捉え方や考え方の違いによって、企業ウェブサイトにおいて情報開示に積極的に取り組むという具体的なCSRの取組みが異なることを示した。特に、企業がCSRの一環として情報開示を志向していれば、実際にも情報開示に積極的に取り組んでいることを明らかにした。また、企業が伝統的に企業の情報開示の主たる情報利用者とされている株主・投資家を志向していれば、積極的な情報開示につながることを明らかにした。さらに、志向するステークホルダーの範囲が広い企業ほど、少なくとも情報の多さ

という点で、情報開示に積極的に取り組むことを明らかにした。

#### (3) 企業の情報開示水準の規定要因の分析

財務情報開示水準の規定要因を解明し、企業がさまざまな戦略的動機に基づいて財務情報開示の充実に取り組んでいることを明らかにした。また、CSR活動との関連を中心に、企業ウェブサイトにおける情報開示や社会・環境情報開示の規定要因をそれぞれ解明した。その結果、CSR活動に積極的な企業ほど、情報開示にも積極的であることを示した。

#### (4) 企業の情報開示の効果の分析

コーポレート・レピュテーション（企業の評判）に着目することにより、社会・環境情報開示や、企業ウェブサイト上の情報開示に焦点を当てて、企業の情報開示の効果を解明した。その結果、情報開示に積極的な企業ほど、総じて高いコーポレート・レピュテーションを獲得していることを示した。

### 3. 現在までの達成度

#### ①当初の計画以上に進展している。

（理由）

本研究では、上述のように、企業の情報開示に影響を与える定量的・定性的な企業特性や、非財務的な観点からみた企業の情報開示の効果について解明することができた。

特に、企業の情報開示に影響を与える企業特性の解明にあたっては、定性的情報であるCSR基本方針のテキスト型データに対してテキストマイニングを行うことにより、CSRに対する各企業の捉え方や考え方という、定性的な企業特性を定量的に捉えることができた。

従来、企業の情報開示に影響を与える企業特性の解明にあたっては、定量的分析に容易に利用可能な定量的な要因だけに、関心が向けられてきた傾向にある。こうした中で、本研究では、テキストマイニングという新しい手法を利用することにより、定量分析に利用することが困難な定性的情報を利用して、企業の情報開示に影響を与える新たな企業特性を解明することができた。

### 4. 今後の研究の推進方策

本研究では、CSRに対する基本方針に対してテキストマイニングを行った結果、上述のように有益な知見を得ることができたので、テキストマイニングが会計学研究において今後有力な分析アプローチとなり得るとの確信を得た。

日本では、内部統制システムについての情報開示をはじめとして、コーポレート・ガバナンスに関連する情報開示が近年制度化されるに至っている。こうした情報開示は、主として定性的情報であるため、同様にテキストマイニングを行うことで、新しい知見を得

られる可能性が十分にある。そこで、今後は、この種の定性的情報の分析を通じて、コーポレート・ガバナンスに対する各企業の考え方を追究し、コーポレート・ガバナンスをめぐる定性的な企業特性を定量的に捉えるだけでなく、さらにこうした定性的な企業特性と、企業の情報開示行動の関係を解明する。

### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計9件）

- ① 記虎優子、「企業のステークホルダー志向と情報開示の関係—企業ウェブサイトに着目して—」、『環境技術』、39巻2号、103～111頁、2010年、査読有。
- ② 記虎優子、「企業ウェブサイトにおける情報開示がコーポレート・レピュテーションに与える影響—評価者属性をコントロールして—」、『社会情報学研究』、14巻1号、33～45頁、2010年、査読有。
- ③ 記虎優子、「企業の社会的責任（CSR）の一環としての情報開示志向と企業ウェブサイトにおける情報開示の関係—テキストマイニングを利用して—」、『会計プロGRESS』、10号、28～42頁、2009年、査読有。
- ④ 記虎優子、「企業の社会的責任（CSR）に対する基本方針が企業ウェブサイトにおける情報開示に与える影響」、『現代ディスクロージャー研究』、第9号、77～83頁、2009年、査読無。
- ⑤ 記虎優子、「企業の社会的責任（CSR）に対する基本方針による企業の類型化—テキストマイニングによるクラスター化の試み—」、『社会情報学研究』、第13巻第1号、2009年、17～29頁、査読有。
- ⑥ 記虎優子、「日本企業の財務情報開示水準の規定要因」、『証券アナリストジャーナル』、45巻10号、2007年、98～113頁、査読有。